

2012 年度春季 18 世紀フランス研究会研究発表会

6 月 2 日 10 時 30 分より

東京大学本郷キャンパス、法文 1 号館 217 教室

18 世紀の科学

啓蒙の世紀と一括りにされがちな時代の中で、多様な展開を示した諸科学の一端を明らかにする。

司会

逸見龍生（新潟大学）

1. ルソーの化学論とその射程

淵田仁（一橋大学大学院社会学研究科博士課程）

本報告では、ジャン＝ジャック・ルソー『化学教程』の内容紹介および研究紹介を行う。18 世紀化学史研究は近年フランスでも盛んに行われているが、化学という新しい知のパラダイムのなかのどこにルソーは位置づけられるのか。これが本報告の主題となる。

2. 18 世紀フランスにおけるオナニー肯定論と日本のオナニー論

関谷一彦（関西学院大学）

18 世紀フランスではオナニーはキリスト教モラルや啓蒙思想を装ったティソの医学理論を背景に厳しく管理されていたと思われがちであるが、ディドロや『女哲学者テレーズ』のテキストに見られるようなオナニー肯定論も存在した。一方、日本では伝統的にオナニーには寛容で、養生あるいは快樂追求という観点で語られることが多い。両者を比較しながら、その背景について考えてみたい。